

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 国際化への対応を促進するため、正規外国人留学生の拡大を2割に高める。	→外国人留学生数。	A→B に修正
2. 社会人学生の比率を3割に高める。	→在職英語教員の履修者数。海外において教育経験のある日本語教員の履修者数。	B
3. 入学定員を安定的に確保するため、入試制度の改革を行う。	→定員の充足率。後期課程の秋学期入試制度、関学生対象の推薦入試制度、留学生対象の研究 生制度の実施。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	(方針) 高度な言語コミュニケーション能力や高度の学問的専門性を旨し、研究対象の言語について基本的な運用能力(例えば英語ならTOEFL500点以上、TOEIC600点以上、日本語能力試験1級以上、中国語HSK8級以上)を有し、研究の土台となる基礎的な知識をもち、研究意欲も旺盛な学生なら、学部や国、年齢を問わず受け入れる。 (現状説明) 言コミパンフレットや履修心得にて研究科が求めている修得すべき内容やレベルを明確に示している。担当指導教員は、履修指導やゼミ指導を通して、それを徹底させている。
☆ 小項目5.0.2	(現状説明) 年に3回入試説明会(学内を含む)、パンフレットの配布、新聞やHPでの広報、院生やOBへの広報などの方法で学生を募集している。ペーパー試験や口述試験、協定校からの推薦という形で、入学者選抜をしている。
☆ 小項目5.0.3	(現状説明) 入学定員を前期課程30名、後期課程3名としている。2010年度の在籍者数は前期課程46名、後期課程25名であり、収容定員の充足率は100%を超えているということから、適切な定員設定ということになる。
☆ 小項目5.0.4	(現状説明) 学生募集は、積極的な入試広報を通して行っている。入学者選抜は、「方針」に基づいて厳正な試験を通して行っている。入学式が終わった後、志願者増減の原因や試験成績を分析し、次年度の入試に生かしている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

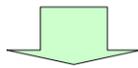
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【言語コミュニケーション文化研究科】		前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	42.1%	58.6%	48.0%	47.6%	88.9%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	88.0%	
指標2	志願者総数	前期課程	人	39	42	38	40	33	
		後期課程		4	2	8	8	11	
指標3	志願者倍率	前期課程	%	130.0%	140.0%	126.7%	133.3%	110.0%	志願者÷入学定員
		後期課程		133.3%	66.7%	266.7%	266.7%	366.7%	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	学生の受け入れ方針を徹底しているため、前年度に劣らないより質の高い入学者が確保できている。
小項目5.0.2	社会人入学者が27%増、留学生が200%増。北京第二外国語学院から3名の教員がDに在籍。学内推薦入学開始。
★小項目5.0.3	収容定員の充足率は1.03。本学の大学院の中でトップレベル。
小項目5.0.4	学生募集の方法や入試成績の反省から得たものは次年度の事に活かされている。
その他	



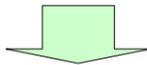
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	本研究科の学生受け入れ方針をより浸透させるため、更に広報の方法を増やし、強化する。
小項目5.0.2	海外協定校との1+2のダブルディグリー制度を新設し、募集方法や選抜方法を増やす。研究生制度を導入する。
★小項目5.0.3	在籍学生数の充足率を踏まえた上で、前期課程の学生を増やす。
小項目5.0.4	検証の時期を固定し、検証の結果を本研究科教員に周知させる。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	学生受け入れの方針や求める学生像の言語表現。
小項目5.0.2	研究生制度や前期課程の9月入学の導入。
★小項目5.0.3	前期課程と後期課程の学生数のバランス。
小項目5.0.4	検証の回数。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	学生にとって具象的でわかりやすい文言で表現する。
小項目5.0.2	関係部署に働きかけ、関係者と連携しながら、研究生制度や前期課程の9月入学を導入する。
★小項目5.0.3	前期課程の入学定員に近づけるように、前期課程の学生を増やす。
小項目5.0.4	年に2回検証する。検証の内容を具体化し、文面化する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○後期課程は収容定員に対する学生数の比率が2.78であるが、逆に多すぎて支障が生じていないのでしょうか。

【学内委員】

○HPでの入学試験要項では、アドミッションポリシーも明示され、修得しておくべき知識等の内容・水準も明示されており、優れていると評価できます。なお、前期課程の在籍外国人留学生数は大学基礎データの表18では、5名となっており、目標値より低い値となっていますが、進捗評価は「A」となっています。その点、気にかかります。

○自己点検・改善のサイクルが機能しているものと判断されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 2009年度に設定した「目標」1. 国際化への対応を促進するため、正規外国人留学生の拡大を2割に高める。の進捗評価をA→Bに修正する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保－入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>

--	--